

## 輝け！文教の町・三股

前三股町教育委員  
黒木 敏 行

私は、6月14日で教育委員を退任いたしました。この4年間、皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成30年3月、三股町教育研究会から「文教三股」No.56が配付されました。この名称の文集が現在も続いていることに感動します。昔は「せせらぎ」という欄があり、新任教師が随想等を載せていました。私が三股中学校に赴任した時の駄文が「文教三股」No.27（昭和63年3月発行）に載っていました。文教の町という言葉と現状のギャップについて憤り、自分の力量不足も顧みないで傲慢なことを書いています。

30年前と現在とは、時代が異なりますが、拙文をそのまま掲載させていただきます。

### 「文教という名をもつ三股」

文教の町三股とは、私が20年前の新卒の頃よく聞いた言葉である。みんな三股を羨ましく、そして畏敬の目で見ている。まさしく文教の町三股は県下に知れわたっていた。当時三股が誇っていたものは何か、あれほど名声を広めたのは何か。そしてどのような条件が揃い、先輩の方々がどのような仕事をなされたのか。この地に勤めて半年たった今、それをつぶさに知りたいと思うこの頃である。文教の町三股という名を守り育てる責任の一端は何といっても学校にある。伝統は守り育て、かつ蘇らせなければならない。そのためには、零からの出発の覚悟もまた必要であろう。文教という言葉に安易に甘えてはならない。傲慢を廃し、反省すべきことは素直に反省し、他に責任を求めず、原点から出発する精神こそは、先輩の偉業の根柢ではなかったかと想像するからである。この学校を母校として育つ生徒等に、三股の誇りを堂々と示せる学校にしなければと思うのである。

（昭和62年度「文教三股」No.27より）

平成22年、文教三股という言葉を使いやすく、実践できるものにしたという願いから、「つくろう三股の新しい伝統を！伝えよう！私たちの手で」というテーマで「文教みまた子どもサミット」が開催されました。その結果、三股町児童生徒憲章が制定されたのです。あれから9年、当時テレビ会議に参加した小学1年生が中学3年生になりました。

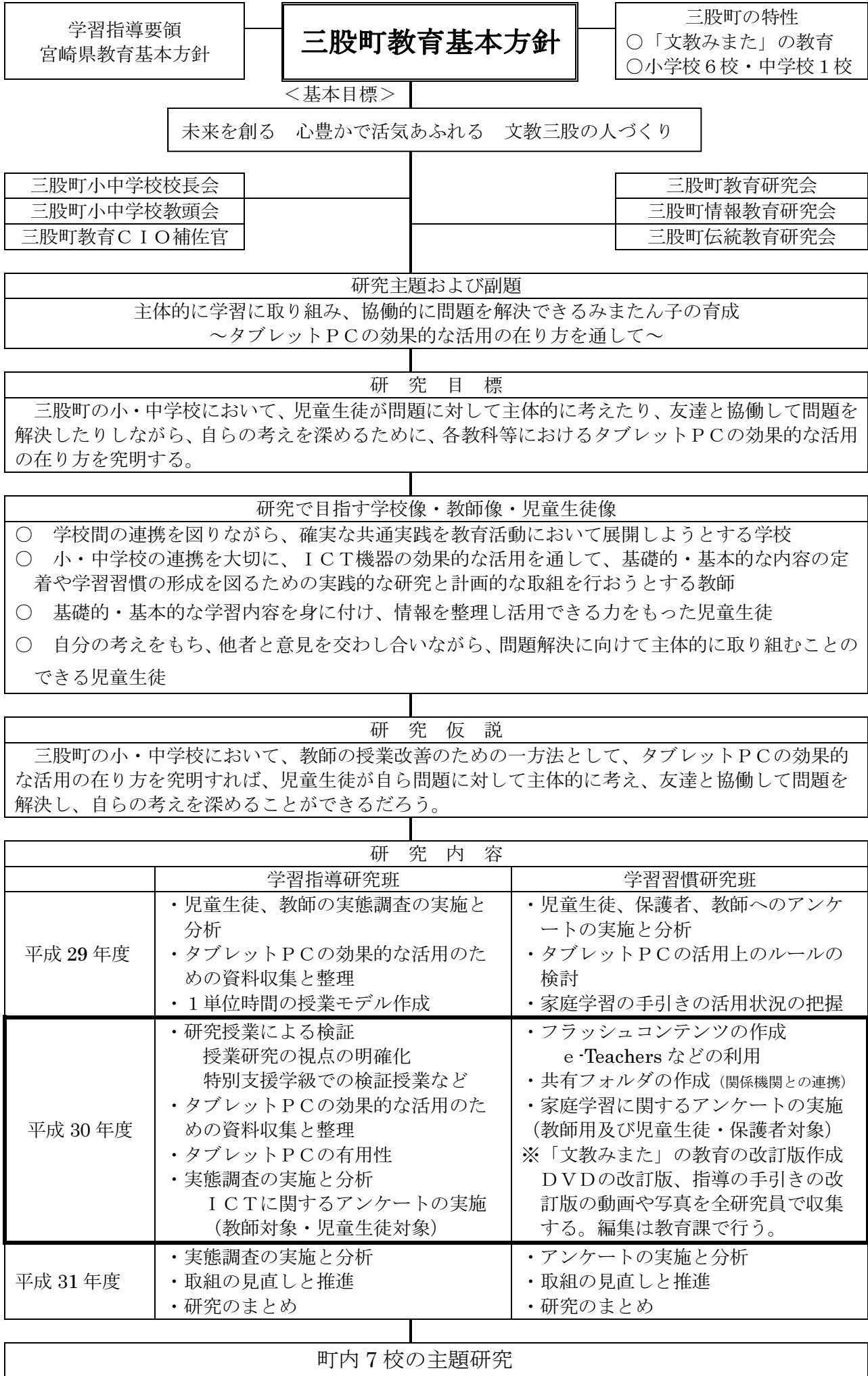
現在、「未来を創る 心豊かで活気あふれる 文教三股の人づくり」という基本目標のもとで、10月第3土曜日を「三股町教育の日」に制定し、「文教みまた教育フェスティバル」が実施されます。そして、文教三股という言葉が、町民にわかりやすく広げられています。

三股町の教育が年々充実してきているという声を耳にします。文教の町・三股を念頭に、小学校・中学校・幼稚園・保育園が緊密に連携し、教育研究所の先導的な研究が各学校へ普及し、そして何よりも先生方が結束して頑張っておられることに感謝している町民の声であると思います。

三股町では、不易と流行、伝統教育と近代教育、この両面を大切にして、時代に応じた教育改革が着実に進められております。文教の町・三股のますますの発展を祈念します。



**研究の全体構想図**



さあ、今年も研究所が始まりました！本年度も引き続き、タブレットを活用した授業づくりの研究を中心に進めていきます。研究所での活動などをこの「研究所だより」でご紹介して参りたいと思います！ぜひ、ご一読下さい。

## ある日の研究所…



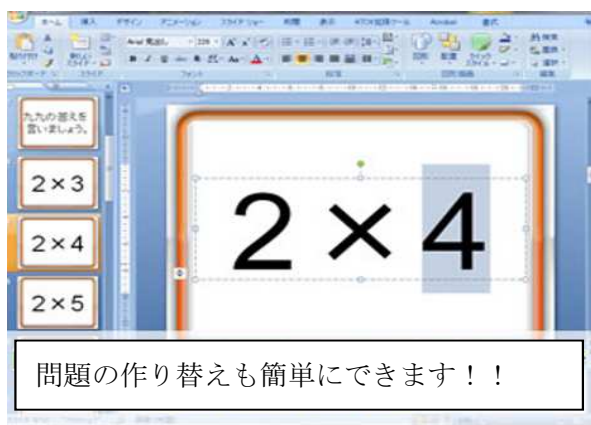
研究所では、まず初めに司会者からのスピーチで始まります！今回は郡先生のスピーチでした！

大学時代、理科を専攻しており動物の研究室に在籍していました。その研究室では「カメ」の研究をしていました。綾町の綾北側と綾南川の約30kmにわたって罝を仕掛け、カメの生態について調べました。この研究を通して、環境問題についてこれまで以上に考えるようになりました。



## 先生方！「e-teachers」をご存知ですか？

「タブレットを授業でどのように活かしてよいか分からない！」といった声をよく耳にします。そこで、今回は「e-teachers」をご紹介します。インターネットで「e-teachers」と検索すると登録画面が出てきます。登録は10分あればできます！



左の画面のように、**パワーポイントで作られた教材**

**が全教科あります。**しかもパワーポイントなので、自分で使いやすいように、作り変えることもできます。授業の最初の復習や習熟の時間などにおすすめです

登録の仕方等、ご不明な点がございましたら、研究所所員にいつでもお聞き下さい♪



平成30年度 三股町教育研究所 研究員

私たちは「文教みまた」の継承と発展のために頑張ります!!

			
三股小学校 能勢 和弘	三股小学校 甲斐 真由	勝岡小学校 佐藤 文香	梶山小学校 荒井 のぞ美
			
宮村小学校 奥野 左紀子	長田小学校 藤田 政宏	三股西小学校 今田 拓晃	三股西小学校 郡 千裕
		<p>私たちは、平成30年度の研究所の研究員です。2年目の研究員が5名、1年目の研究員が5名です。</p> <p>三股の子どもたちの学力を伸ばすために日々研究しています。毎週火曜日 17:30~19:30 に中央公民館で研究会を行っています。</p> <p>よろしくお願いたします。</p>	
三股中学校 南 洋一郎	三股中学校 山下 雄太郎		

編集あとがき

今年度の研究所では、『タブレット PC がどんな場面で活用できるのか』について、3回の研究授業を中心に進めていきます。また他にも、班を2つに分け、タブレット PC の活用例や『「文教みまた」の教育』の DVD 改訂版も作成していく予定です。1学期は、小学校4年生音楽の授業を通しての活用について授業検討を行ってきました。「メリーさんの羊」をどのように表現するか考え、指揮を発表しました。児童は指揮に合わせて、歌えていたかどうかタブレット PC を使って確認することで、指揮によって曲の強弱や速度が変わることを感じていました。今後、先生方にタブレット PC を活用していただくためにさらに研究を深めていきたいと思ひます。これからも、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。

## 今こそ「三股町ならではの教育」のさらなる推進を！

三股町教育委員会  
主幹 長倉 修

去る10月20日、三股町文化会館にて「教育の日」の啓発イベントの一環として「文教みまたフェスティバル」が行われました。このイベントは、学校における伝統教育や各種団体及び個人の教育支援に関する取組についての情報発信・交流を通して、学校・家庭・地域が連携・協力して、心豊かでたくましく生きる力をもった子どもたちを育てることをねらいとしたものです。

当日は、333名もの方々が来場され、盛会のうちに幕を閉じました。伝統芸能「大太鼓踊り」を皮切りに、三股町児童生徒憲章の朗読やPTAの実践発表、国内外派遣を終えての発表、創作劇の発表、児童生徒の意見発表、保育園児によるエンディングに至るまで、全ての内容が三股町ならではの教育にふさわしい充実した内容でした。三股町の多くの先生方や家庭、地域の連携による教育実践の底力を感じる時間となり、大変感動いたしました。



本年度4月以降、町内の各小・中学校を訪問した際、「校門での一礼」や「黙想・座礼」、「無言清掃」などに取り組む子どもたちの姿を幾度となく目にしました。このような「伝統教育」の取組は、薩摩藩伝統の「郷中教育」の理念を受け継ぎ、平成22年に制定された「三股町児童生徒憲章」に基づく取組であると聞きます。まさに「文教みまた」にふさわしい三股町ならではの教育であると改めて実感しています。さらに、三股町では、幼保小中連携推進協議会を中心として、幼保小中の15年間を通した一貫教育を目指す取組も進めています。今後「伝統教育」のさらなる充実を図るためには、学校と家庭、地域の「横の連携」はもとより、このような教育の「縦の接続」に係る取組も重要であると考えます。

一方、三股町教育研究所は、本年度30年の時を重ね、研究主題「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」の具現化に向けて、授業改善の一方法としてタブレットPCの効果的な活用を柱に、研究授業や実践事例の作成・検討等を通して、所員の先生方のチームワークと英知を結集した具体的・実践的な研究が推進されています。

ところで、平成29年7月に公示された学習指導要領解説総則編の第1章総説の冒頭の一部に次のような表記があります。

「こうした変化の一つとして、人工知能(AI)の飛躍的な進化を挙げることができる。(中略)

このような時代において、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」

まさに、日々の教育活動において、「予測不可能な未来において、子どもたちが自己実現を図ることのできるような資質・能力を育てる学校教育とはどう在るべきか」、「持続可能な社会の担い手としての子どもを育てる学校教育とはどう在るべきか」と問われている気がしています。

現代の学校教育における複雑多岐にわたる様々な課題は、この三股町においても例外ではありません。その課題解決に向けた道筋を示してくれるものは、やはり、文教三股の「歴史と伝統を大切にしたい教育」と教育研究所がリードする「先進的な教育」の両輪ではないかと考えます。

今後も足元を見失わず、それらをしっかりと着実に、粘り強く推し進めていくことが重要であるという認識を新たにしているところです。



# 長田小学校・梶山小学校 でのタブレットPC活用法！



みなさん、三股町内で、児童用タブレットPCが入っている学校があることをご存知でしょうか。今回は、長田小学校と梶山小学校の児童によるタブレットPC活用法をご紹介します。

## 〈長田小学校〉 第2学年 算数 「かけ算九九」



### ★児童側のよさ★

- 間違えた問題を繰り返し解くことで、さらに理解することができる。
- 短時間で振り返りをすることができる。

### ★教師側のよさ★

- 電子ドリルを活用することで、個に応じた指導をすることができる。
- 印刷や採点の必要がないため、教師の負担が軽減される。

## 〈梶山小学校〉 第4学年 図工 「木々を見つめて」

### ★児童側のよさ★

- 自分が好きな角度や位置の写真を納得がいくまで撮影することができる。
- 下描きや色を塗る際に、何度も写真を見て確認することができる。

### ★教師側のよさ★

- 写真を撮っていると、児童が描きたい場所が分かり、指導に生かすことができる。
- 児童が撮った写真を見ながら、より細かな指導に生かすことができる。



研究所で行った授業実践の様子です。今年度は3回の研究授業を行いました。

学校名	勝岡小学校	学年	4年	実践者	佐藤 文香
実践日	平30年6月28日	教科名	音楽科	単元名・題材名	ひょうしとせんりつ
活用形態	教師のみ	教師+グループ1台		教師+児童生徒一人1台	
活用したアプリケーション	ビデオカメラ機能				
<p>1 活用内容</p> <p>① 「まなびあい」段階で活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分で考えた指揮の動きを確認するとき 児童の指揮の動きをタブレットPCのビデオカメラ機能で撮影する。指揮の動画から、速度や強弱が伝わるような指揮の動きや歌い方ができているかどうか確認する。</li> <li>○ 学習のふりかえりをするとき まなびあいの段階で撮影した指揮の動画を全体場で確認することによって、指揮の動きによって歌の速度や強弱が変化することに気付かせ、学習の振り返りを行う。</li> </ul> <p>② 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の様子を客観的に捉えることができた。</li> <li>○ 速度や強弱に合った指揮の動きを考え、実践することができた。</li> <li>○ 指揮の動きによって歌の速度や強弱が変わることに気付くことができた。</li> </ul> <p>2 活用しての感想</p> <p>指揮の様子や歌声をタブレットPCのビデオカメラ機能で撮影し、確認することで、児童が学習の様子を客観的に捉えることができた。動画で学習の様子を何度も繰り返し確認することができる点で、タブレットPCは有効であると感じた。</p>					



学校名	三股中学校	学年	2年	実践者	南 洋一郎
実践日	平30年9月27日	教科名	社会科	単元名・題材名	近畿地方
活用形態	教師のみ	教師+グループ1台		教師+児童生徒一人1台	
活用したアプリケーション	ウィンドウズインク機能、NHK for school				
<p>1 活用内容</p> <p>① 「まなびあい」段階で活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 京都市のコンビニと三股町のコンビニを比較し、ウィンドウズインクを使って、写真に違いを書き込ませて理解させる。</li> <li>○ 京都の映像資料を視聴し、京都市民の町づくりの思いについて、映像を途中で止めながら理解させていく。</li> </ul> <p>② 児童生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2枚の写真を比べながら、タブレットPCに書き込むことができ、意欲的に活動できた。</li> <li>○ 視聴することによって、より具体的に理解することができた。</li> </ul> <p>2 活用しての感想</p> <p>ウィンドウズインクを使って、直接タブレットPCに書き込むことができ、生徒も活動しやすかった。また、映像を見せ、途中で止め、解説しながら説明することによって、生徒もより理解を深めることができた。</p>					



学校名	三股町立宮村小学校	学 年	3 年	実践者	奥野 左紀子
実践日	平 30 年 10 月 23 日	教科名	社会科	単元・題材名	お店ではたらく人
活用形態	教師のみ	教師＋グループ 1 台		教師＋児童生徒一人 1 台	
活用したアプリケーション	カメラ機能				

## 1 活用内容

### ① 「みとおし」段階で活用

- 本時の学習内容をつかむとき  
スーパーマーケット見学の様子を写真でふりかえり、見学の際の視点を確認する。



### ② 「まなびあい」段階で活用

- 「発見カード」の書き方を確認するとき  
見学の際に発見したお店の工夫をまとめる「発見カード」の模範例を大型テレビに提示し、「発見カード」の書き方を確認する。
- 発表会をするとき  
自分たちで撮った写真を大型テレビに提示しながら、お店の工夫について発表させる。タブレット PC を操作し写真を選択したり、説明に合わせて拡大表示させたりする。



### ③ 児童の反応

- 「発見カード」の記入作業に、スムーズに取り組むことができていた。
- 自分たちで撮った写真をもとに発表することで、意欲的に取り組んでいた。
- 写真を大型テレビに提示したり、拡大表示したりすることによって、お店の工夫を、より具体的に理解することができていた。

## 2 活用しての感想

大型テレビに提示することで、紙に印刷する手間が省けた。また、大型テレビの提示は、拡大表示をすることもでき、理解が深まったと感じた。デジタルカメラやタブレット PC の活用方法を児童に指導したが、回数を重ねるごとに随分上達した。意欲的に活動を継続することに効果的であると感じた。

**このように研究所では、タブレットの授業実践をまとめています。研究所では先生方からの授業実践を集め、活用例集としてまとめたいと考えています。「こんな場面でタブレットPCを使うと効果的だった。」という事例があれば、ぜひ教えてください。ご協力よろしくお願いします。**

### 【編集あとがき】

1学期に1回、2学期に2回の研究授業を行いました。『タブレットPCがどんな場面で活用できるのか』について授業を考えてきました。協議をする中で、「タブレットPCを活用することの良さは何なのか」「タブレットPCの手だてによって児童にどんな効果があるのか」を研究員で話し合い授業実践につなげました。実践をしていく中で感じたことは、映像や画像で学習内容を確認することで、児童の理解が深まることです。例えば、映像で自分たちの姿を確認することで、表現の違いに気付いたり、画像で街の様子や店の様子を確認することで、働く人々の工夫や思いに気付いたりしていました。また、児童がタブレットPCを使って発表をする場面では、調べたことを意欲的かつ分かりやすく発表することにつながりました。研究所では、これから今年度の取組についてまとめていきます。今後、先生方にタブレットPCを活用していただくために、さらに研究を深めていきます。これからも、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



未来をたくましく生きる子どもたちのために・・・！

三股町教育研究所  
所長（教育長）宮内浩二郎

2030 年には、少子高齢化が更に進行し、65 歳以上の割合は総人口の 3 割に達する一方、生産年齢人口は総人口の約 58%にまで減少すると見込まれている。また、子どもたちが将来就くことになる職業のあり方についても、技術革新等の影響により大きく変化することになると予測されている。子どもたちの 65%は将来、今は存在していない職業につくとの予測や、今後 10 年～20 年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高いなどの予測がある。このような中で、グローバル化、情報化、技術革新等といった変化は、子どもたちのどのような進路に関わらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものであるという認識に立ち教育を行う必要がある。



このように、予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮していくことが重要である。

つまり、学校教育を終えた後の出口がかつてとは異なる形で問題化してきている。もはや大学受験を乗り越えて、よい大学に入ってよい会社に入る、それで一生安泰という流れは必ずしも成り立たなくなっている。勉強ができ、基礎的な知識・技能を身に付けることは今でも重要であるし、社会もそれを求めているが、それだけでは変化の早い予測不能な仕事・社会を力強く生きていくのに不十分である。

そこで、学校教育法の改正で「学力の三要素」を ①基礎的な知識・技能、②これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む態度 と規定された。今回の新学習指導要領は、この学力の三要素を身に付けるべく進められているのである。

本町においても、未来をたくましく生き抜いていける人間を育てるために、平成 21 年度より ICT を活用した教育の環境整備を行ってきた。教員に対して一人 1 台のパソコンと各教室に大型ディスプレイを配置し学習支援システムの高度化と学校内の情報ネットワークを構築した。その後、校務支援システムの導入により教員の業務改善も図ったところである。平成 29 年度から年次的にタブレットパソコンを導入し、新学習指導要領のねらいの達成に向けた取り組みを行っている。

これらの ICT 教育の理解や普及に対して貢献してきたのが町の教育研究所である。研究員 10 名は、各学校の勤務時間終了後に毎週 1 回、中央公民館の 1 室に集まり町の教育的課題の解決に向けて、計画的に研究を行っている。他の市町の研究所と違うところは、全員が同じ研究主題に取り組み、その研究の成果を町内の全ての先生方に還元し実践してもらっているところである。今年度は「タブレットパソコンの効果的な活用の在り方」の研究成果を発表し全ての小中学校に提示した。

次年度からは、「プログラミング的思考を取り入れた授業の在り方」について研究し、新学習指導要領全面実施に向けての支援になればと考えているところである。今後とも、各学校と町教育研究会そして町教育研究所との連携を図ってみまたん子どもたちの明るい未来の創造に貢献していきたいと願っているところである。

# 「県教育研究機関連絡協議会研究発表大会」を終えて

平成31年2月8日(金)、宮崎県教育研修センターにて「平成30年度宮崎県教育研究機関連絡協議会研究発表大会」が開催されました。三股町教育研究所をはじめ、合計12の研究発表が行われ、「確かな学力」「特別の教科 道徳」「主体的な学び」「ICTの活用」など、多様な教育的課題について取り上げられていました。さらに、「主体的・対話的で深い学び」といった、今求められている授業改善の視点について取り上げている研究機関もありました。



三股町においては「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成～タブレットPCの効果的な活用の在り方を通して～」という主題で研究を進めてきました。今大会では、アンケート結果や研究授業の内容をもとに研究発表を行いました。研究発表大会に参加された方々のアンケートでは、多くの称賛の意見をいただきました。また、他研究機関で推進されている研究内容には、今後の研究の参考になりそうな考えや取組が多くありました。

これからも、より一層の小中一貫教育の充実を図るとともに、タブレットPCの効果的な活用の在り方について研究を進めていきたいと思います。

## 今年度の研究の概要

<p><b>主題設定の理由</b></p> <p><b>みまたんモデル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>み</b> 見通しをもたせるめあての提示を</li> <li><b>ま</b> 学び合いで考えに深まりを</li> <li><b>た</b> 確かめることで学習内容の定着を</li> </ul>	<p><b>研究主題・副題</b></p> <p><b>研究主題</b> 主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できる みまたん子の育成</p> <p><b>副題</b> タブレットPCの効果的な活用の在り方を通して</p> <p><b>研究仮説</b> 三股町の小・中学校において、教師の授業改善のための方法として、タブレットPCの効果的な活用の在り方を究明すれば、児童生徒が自ら問題に対して主体的に考え、友達と協働して問題を解決し、自分の考えを深めることができるだろう。</p>	<p><b>発表内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>I</b> アンケート集計・分析</li> <li><b>II</b> 授業実践</li> <li><b>III</b> その他の取組</li> </ul>																							
<p><b>アンケート分析</b></p> <p><b>ICT活用アンケート(教師)</b></p> <p>中学校の活用率の変化(タブレットPC)</p> <p>平成29年度: 63% 平成30年度: 80%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①使用環境の整備</li> <li>②活用方法の工夫</li> </ul>	<p><b>授業実践</b></p> <p><b>タブレットPCを活用した授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 閲覧性を生かした授業＝写真機能 第3学年 社会科「人ひとのしごととわたしたちのくらし 店ではたらかん」</li> <li>○ 再現性を生かした授業＝動画撮影機能 第4学年 音楽科「ひょうしとせんりつ」</li> <li>○ 記入性を生かした授業＝書き込み機能 中学校第2学年(特別支援学級) 社会科「近畿地方」</li> </ul> <p><b>閲覧性</b> <b>再現性</b> <b>記入性</b> <b>個別性</b></p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的な学習につながった</li> <li>○ 興味関心が高まった</li> <li>○ 授業改善につながった</li> <li>○ 活用率が向上した</li> <li>○ 利便性への理解が進み、資料準備の時間の大幅な短縮ができた</li> <li>○ 個に応じた指導ができた</li> </ul>																							
<p><b>②タブレットPC授業実践集の作成</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>学年</th> <th>単元</th> <th>学年</th> <th>担当</th> <th>指導地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三股町立小</td> <td>4</td> <td>音楽</td> <td>4</td> <td>松本 幸子</td> <td>三股町</td> </tr> <tr> <td>三股町立小</td> <td>3</td> <td>社会</td> <td>3</td> <td>松本 幸子</td> <td>三股町</td> </tr> <tr> <td>三股町立小</td> <td>2</td> <td>社会</td> <td>2</td> <td>松本 幸子</td> <td>三股町</td> </tr> </tbody> </table> <p>1. 活用内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「まなびあり」 研修で活用             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修前のアンケート(三股町のコンピにも研修後、オンラインアンケートを渡って、写真の撮り方や撮影の仕方などについて、理解につながった。</li> <li>○ 研修の研修資料を閲覧し、京都府内の町づくりの思いについて、研修と研修で、具体的な理解が深まっている。</li> <li>○ 授業・生徒の反応                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2枚の写真を見ながらタブレットPCに書き込むことができ、意図的に活動できた。</li> <li>○ 閲覧することによって、より具体的に理解することができた。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>② 活用して感想             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ オンラインアンケートを使って、直接タブレットPCに書き込むことができ、生徒も積極的に活動した。また、熱意を見せ、途中で止め、解説しながら説明することによって、生徒もより理解を深めることができた。</li> </ul> </li> </ul>	学校名	学年	単元	学年	担当	指導地区	三股町立小	4	音楽	4	松本 幸子	三股町	三股町立小	3	社会	3	松本 幸子	三股町	三股町立小	2	社会	2	松本 幸子	三股町	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ タブレットPCを活用する教材の精選が必要である</li> <li>○ 教科ごとの活用方法について研究し、授業実践の情報提供をしていく必要がある</li> <li>○ タブレットPCの活用を促す研修の充実を図る必要がある</li> <li>○ 持ち運びができるよさに着目した研究を一層推進していきたい</li> </ul>
学校名	学年	単元	学年	担当	指導地区																				
三股町立小	4	音楽	4	松本 幸子	三股町																				
三股町立小	3	社会	3	松本 幸子	三股町																				
三股町立小	2	社会	2	松本 幸子	三股町																				

## 《 三股町教育研究所研究発表に参加された方のアンケートより 》

- 各学校、教室へのタブレットPCの配置、とてもうらやましいなどと思いながら発表を聞かせていただきました。今後導入が進む分野だと思うので、使用した先生方の感想や子どもたちの声など、もっと話を聞きたいと感じました。
- タブレットPCの使用率がとても高く驚いた。先生たちからすると手軽に使いやすいものだったのだと思う。活用のマニュアルの作成、先生たちへの広め方などとても参考になった。
- 教師が授業でタブレットPCを使用する実践、教師+児童がタブレットPCを使用する実践が大変わかりやすかった。今回が研究の1年目であるとのことですので、今後の研究で教師と児童が活用した授業実践がよりよいものになっていくことを願い、今後もお話が聞けることを楽しみにしています。
- タブレットPCの活用例についても見ることで、大変参考になりました。また、読書活動の推進も研究の中にありました。「1人80冊」という目標が立てられていましたが、達成度がどのくらいか気になりました。子どもたちが読書をしないことに悩んでいたところでしたので、勉強になりました。
- 未来の学校のICT環境を想像すると、今後タブレットPCの導入は必至であると考えます。全ての学校、教室、児童に100%完備されるまで、どれくらいの時間がかかるのかわかりませんが、本研究の取り組みを各学校に広げていくことが必要と感じました。整備途中の研究は、これから導入となる学校にとって大変有難いです。学力向上を目指し有効活用を図りたいです。
- 9月に導入したにも関わらず、活用率が80%を超えているのはすごいと感じました。学校でどのような研修をして職員に普及したのかが気になりましたが、簡単なカメラ機能や書き込みから活用しているということで納得しました。タブレットPCを使うことの効果がどのようなものであるのか、ぜひ研究して広めていただけたらと思います。
- タブレットPCが導入されたばかりということでしたので、今後子どもたちがどのように変容していくのか気になりました。児童に対しても教師に対しても使用上のきまりや使い方の共通理解を図ることは大切だなと感じました。実際の動画があってわかりやすかったです。
- 教師用マニュアル、児童生徒用マニュアルがあり、誰でも気軽にタブレットPCを使うことが可能になり、授業実践が多く集まるということは町の先生方が当たり前のように使っている証拠だと思います。ICTは使用することにより成果が上がる場面で活用したいので、PCとタブレットPCとの違いをどう捉え、このような特徴があるから授業のこの場面で見える、という整理をしていただけると広まると思います。
- タブレットPCは本当に便利です。ICTに関する環境の整備が進んでいる三股町がうらやましいと思います。児童生徒にどのように使わせていくかをとても知りたいと思っています。ぜひ今後も研究を深められて教えていただけると有難いです。

## 《今年度の研究を終えて》

研究指導員 園田修司

本年度は、研究主題「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」のために、タブレットPCの効果的な活用の在り方について取り組んできました。

本年度の研究の成果の一つとして、授業の中で活用するタブレットPCの有用性を「閲覧性」「再現性」「記入性」「個別性」の4つにまとめたことです。このことで、授業の中で何をどのように活用すれば、児童生徒の学習意欲や学習内容の理解につなげることができるかを考えやすくなりました。

そのことは、本年度実施した3つの研究授業からも、児童生徒の学習に対する興味関心を高め、主体的な学習、そして協働的に問題を解決する学習になることが分かりました。これらの有用性を町内の先生方が理解しタブレットPCを効果的に活用し、児童生徒一人一人に応じた授業を構築し学力向上につなげていただきたいと思います。

最後に、本年度研究を共に推進してきた10名の研究員の皆さんの真摯な取り組みにより、大変充実した研究ができ素晴らしい成果を挙げることができました。これも、研究所を支えていただいた三股町教育委員会、町内の校長先生方並びに関係各位の皆様方のご理解とご支援のおかげと心より感謝申し上げます。



平成30年度 三股町教育研究所

## ◇ 今年度の研究を終えて ◇

<p>園田先生をはじめ先生方の和やかな雰囲気、どんなことでも質問ができ、さらに的確なアドバイスをいただきました。いつも、学びの多い、あっという間の2時間でした。</p> <p>タブレット PC のよさを生かした活用ができるよう、来年度は自校の先生方に研究所での学びを確実に伝達することを継続して取り組んでいきます。</p> <p style="text-align: right;">梶山小学校 荒井 のぞ美</p>	<p>昨年度、タブレットPCは教師なら誰もが希求する「分かりやすい授業」を実現するスーパーアイテムであることを実感しましたが、本年度はその有用性を4つ（閲覧性・再現性・記入性・個別性）に整理し、検証授業が行われたことで、タブレットが超ウルトラスーパーアイテムであることを更に実感しました。</p> <p>ほんと、タブレット半端ないって！</p> <p style="text-align: right;">三股小学校 能勢和弘</p>
<p>「研究とは？」という、右も左も分からない状態の1年目。先輩先生方の研究に対する考え方や発言の仕方は発見の連続でした。研究授業させて頂いた2年目。タブレットPCのよさについて真剣に考えた時間はとても貴重な時間になりました。あっという間に過ぎ去った2年間。研究所で過ごした時間は、これからの教員生活の中で大きな糧になると確信しています。</p> <p>園田先生をはじめ、研究所の先生方、2年間、本当にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">勝岡小学校 佐藤文香</p>	<p>今年、1年研究所員として、タブレットPCを授業の中でどのように活用すれば効果的かを自分なりに考えてきました。三股町に来るまでは、タブレットPCを活用した授業は全くしたことがなく、不安もありましたが研究を進めていく中で、先生方から多くのことを学び、研究所に入る前よりはタブレットPCを授業の中で活用できるようになったかなと思います。</p> <p>今年度の学びを今後につなげていきたいと思っています。1年間、本当にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">三股小学校 甲斐 真由</p>
<p>今年度も研究所で実施しました実態調査のアンケートや、授業研究会に御協力をいただきありがとうございました。研究所としても先生方にタブレットPCをどのように活用していただけるかを考えてきましたが、有効な情報をあまりご提供できなかったのではないかと反省をしています。</p> <p>ICT機器は授業を支える有効な手段の一つです。これからもみまたん子のために活用方法を考えていきたいと思っています。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">長田小学校 藤田政宏</p>	<p>本年度は、タブレットPCを使った研究授業をさせていただきました。研究員の先生方と共に、タブレットPCをどのように活用することが、子どもたちの学びにとって効果的なのかを考える時間は、私にとって、とても意味のあるものでした。子どもたちの「主体的で対話的で深い学び」の実現のためには、私たち教師の教材研究の積み重ねが大切だと、改めて気づかせていただいた研究所での2年間でした。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">宮村小学校 奥野左紀子</p>
<p>素敵な先生方と、ためになる情報の出会いあふれる研究所一年目となりました。先生方の話は、私にとって新鮮で、わくわくする内容ばかりでした。時には難しく、頭が爆発してしまいそうな時もありました。しかし、どんな質問に対しても丁寧に教えてくださいました。先生方にとっても感謝しています。自分も、三股町の研究に少しでも力になれるよう、精進していきたいです。</p> <p style="text-align: right;">三股西小学校 郡 千裕</p>	<p>今年度は、タブレットPCの実践例集やアンケートなど様々な形で先生方にはご協力をいただきました。本当にありがとうございました。教育研究所ではこれからもタブレットの研究を進めて参ります。先生方の授業のサポートができるような研究をこれから進めていければと思います。研究所での学びを今後も生かしていけるようにしていきます。二年間お世話になりました。</p> <p style="text-align: right;">三股西小学校 今田拓晃</p>
<p>今年度から、研究員としてタブレットPCに関する研究を推進してきました。「自分に何ができるのか」と不安を抱きながらスタートしましたが、研究所の明るい雰囲気や積極的な姿勢に支えられ、大変勉強になる1年を過ごすことができました。小・中学校とともに、授業改善においてタブレットPCはとても有効な手段だと実感しましたので、今後も活用法を模索していきます。</p> <p style="text-align: right;">三股中学校 山下 雄太郎</p>	<p>教育研究所所員を2年間務めることができました。この2年間、三股町の研究に携われたことは、私自身にとってもとても意義のあるものでした。特に、これからの教育は、ICTを活用した教育がとても大事になってきます。その点でも、町内の先生方と一緒に研究できたことは、これからの私の教員生活にも大いに役立つことと思います。2年間、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">三股中学校 南洋一郎</p>